



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

第44号 平成22年5月1日発行
<http://www.atsukou-dousou.org/>

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 24,366名
合計 28,281名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会

編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243



本部活動報告

〔平成21年度事業報告〕



同窓会会長 近藤 俊二(高6回)

天下に轟く
「戸室の丘辺」

第4回青春かながわ校歌祭

年間事業の中で、何と言っても「厚木高校同窓会」ここに在り」の存在感を県下に轟かせたのは、10月の校歌祭であった。実行委員長校として県立高校同窓会をまとめ、2000名を超える参加者を厚木にお迎えできたことは幸甚なことであった。



客席も総立ちでフィナーレの大合唱

会費納入、地引き綱会
思い出の杜事業など

同窓会費の納入状況は順調に推移し、卒業生の入会金を含めて620万円の納入があった。お陰様で以下に報告する各事業も活発に行われた。



家族連れで賑わった昨年の地引き綱会

各支部の総会に参加して
関西支部が誕生

この1年間に13の支部総会に参加させていただいた。どこの地区も講演やアトラクションに工夫をし、和気藹々の先輩・後輩の会話が親しみを感じさせてくれる。関西支部の立ち上げ発起人会にもお邪魔したが、17回卒の齊藤十内さんを中心に活動が始まろうとしている。是非応援を頼みます。

この期にあわせて本部では、「同窓会活動活性化補助金交付要綱」を作成し、今までの同期会に加え、支部総会などにも補助金を出すことにいたしました。細部については、同窓会ホームページをご覧ください。



支部会活動にも補助金が

学校支援

現役の後輩たちへの応援

本年度も、後輩への応援の気持ちをごめ、学校からの要請に基づいて「母校教育振興基金」を使い、グラウンドの砂飛散防止と、旧体育館の雨漏り防止工事の補助として130万円を支出した。生徒たちは、挨拶も行き届き、勉学はもとより部活動にも喜々として活動して居り、嬉しい限りである。

〔21年度の行事・活動状況〕

平成21年	創立107周年開校記念日	7月22日	厚木連合戸陵会総会
4月13日	「第9回 地引き綱会」	9月13日	相模原両青会総会
5月6日	伊勢原戸陵会総会	9月13日	校歌祭練習会
5月9日	大和戸陵会総会	10月10日	「第4回青春かながわ校歌祭」
5月17日	座間戸陵会総会	11月21日	秦野戸陵会総会
5月30日	同窓会会報第43号発行	11月22日	同窓林「思い出の杜に親しむ会」
6月1日	愛川戸陵会総会	平成22年	
6月20日	平成21年度定期総会及び懇親会	2月7日	津久井支部会総会
6月27日		2月28日	御所見戸陵会総会

愛川戸陵会の協力で

第1回「思い出の杜に親しむ会」開催

昨年11月22日本部主催の第1回「思い出の杜に親しむ会」パーベキュー大会(観泉荘・こまや)が催されました。

同窓林の方は愛川町森林組合のお力を借り、又愛川戸陵会の有志の手で整備されました。

当日は、午前10時30分から紅葉がいちばんきれいな時期でもある「思い出の杜」を、近藤会長はじめ



紅葉に色づく思い出の杜見学

平成22年度の主な行事予定

平成22年	
4月13日	創立108周年開校記念日
5月1日	同窓会会報第44号発行
5月4日	「第10回地引き綱会」
5月8日	伊勢原戸陵会総会
5月16日	大和戸陵会総会
5月16日	関西支部設立総会
6月19日	愛川戸陵会総会
6月27日	平成22年度定期総会及び懇親会
7月	厚木連合戸陵会総会
8月29日	校歌祭練習会
9月12日	相模原戸陵会総会
9月25日	「第5回青春かながわ校歌祭」
11月	秦野戸陵会総会
11月	座間戸陵会総会
11月21日	同窓林「思い出の杜に親しむ会」
平成23年	
2月	津久井支部会総会
3月	第63回卒業式
3月	御所見戸陵会総会

6月27日総会開催
平成22年度の厚木高校同窓会定期総会を次のとおり開催します。
日時/6月27日(日)
午後1時30分より
会場/厚木商工会議所
5階大会議室
案件/平成21年度事業報告
平成22年度決算報告
平成22年度予算案
平成22年度予算案
他
総会終了後、写真撮影及び懇親会を予定しています。



盛会だった昨年の同窓会総会



「戸室の丘辺旭日射して
三剣光り輝く見すや
阿夫利の高嶺相模の流れ
高きに憧れ長きを慕ふ
相州健児あ、我が友、略々」
昨年の10月10日厚木市文化会館にて、厚木高校同窓生240名、現役高校生80名は校歌・第一応援歌を声高らかに合唱し、開催地の担当同窓会として第4回校歌祭の「トリ」を飾ることができた。そのOB・OGたちは皆、紺色系スーツにお揃いのネクタイの出で立ちと、えんじの鉢巻きをきりりと締め込み、応援団OBの勇ましい指揮ぶりのもと、拳を振り上げ舞台狭しと歌い上げた。花道には勢揃いの現役高校生80名、野球部・ダンスドリル部・軽音楽部からの共演参加で、相州健児の心意気を十二分に表現できたのである。

そして、校歌祭フィナーレの定番は「遙かな友に」と「仰げば尊し」の大合唱であった。ひな壇に並ぶ厚高同窓生も花道の現役生も、壇上にながれなかつた観客席の同窓生も、他校同窓会全参加者が総立ちとなり、校歌祭を歌い終え感動的に幕を下ろすことができた。

この校歌祭は、4年前に「かながわ校歌振興会」が発足誕生してから、年一度実行委員会組織による企画運営で開催を重ねてきた。会則にある、神奈川県内の新制高等学校及び旧制中学校等の校歌・応援歌などの伝承及び振興を図るとともに、卒業生との交流に努め、併せて会員相互の親睦を増進することを目的としていることなど、皆さんには周知のことである。

役目を終え、肩の荷を下ろしたところである。そして、改めて振り返ると、数多くの経験とたくさんのお知恵を得たこと、校歌の魅力が改めて感じることができたことなど、その喜びには計り知れないものがある。心から感謝する次第である。

まずは、事務局用務を通じて、24校同窓会との連絡調整から各種会議へ、そして、最終のシナリオ作りにはいたるまで、校歌に思いを寄せる各同窓会役員の方々とのお出合いがあった。また、当日運営のスタッフや会館技術・カメラマン・司会者の方々の皆さんのご支援で、校歌祭一日の舞台を創り上げた。大袈裟に言えば総合的なプロデュー

多くの経験と出会いに感謝
さて、この度の厚木高校同窓会が担当する機会に、ご縁があつて近藤会長から依頼を受け、実行委員会事務局の大役を仰せつかることになり、今ここに事務局用務の

まず、事務局用務を通じて、24校同窓会との連絡調整から各種会議へ、そして、最終のシナリオ作りにはいたるまで、校歌に思いを寄せる各同窓会役員の方々とのお出合いがあった。また、当日運営のスタッフや会館技術・カメラマン・司会者の方々の皆さんのご支援で、校歌祭一日の舞台を創り上げた。大袈裟に言えば総合的なプロデュー

「あ、青春の誇りなる 若き命の栄光を た、えて燃ゆる感涙の

「妖雲影をひそむれば 自由の翼空高く 我又行かん憧憬の 真理の国には、たかん」は、胸に熱いものがこみ上げて仕方がなかった。

このように校歌と応援歌には、建学の精神や地域の風土、自然、歴史・文化が謳い込まれ培われてきた伝統や校風、顕現してやまない「学校の魅力」が表現されていると思えるのである。それらは(旧)神奈川県第三中学校から県立厚木中学校への歩みと「質実剛健」の校風から醸し出される特色であり校歌・応援歌を歌いながら、誰の胸中にも去来したのではなからう

スガ体験できたことである。次には、記録としての記念アルバムやDVDの映像からよみがえる、各場面の感動を味わい振り返ることも楽しいものとなった。多くの皆さんと話し合い、準備段階を重ねて、2000名を超える皆さん方と校歌・応援歌を歌う喜びを共有できたことも貴重な体験であった。

見事な応援団の演出・指揮
そして、もう一つ上げるとすれば、我が母校応援団OB組織のチームワークと組織力を絶賛しなければならぬ。9月13日の練習会運営はもとより、300名を超えた本校同窓会出演者を整然と登場させしかも一糸乱れぬその演出・指揮

最後に、校歌祭プログラムの巻末には、「青春」(サムエル・ウルマンの詩)が掲載されている。青春とは「心の持ちかた」であり、「たくましい意志」「ゆたかな想像力」「炎える熱情」であり、「人生の深い泉の清新さ」であるという。正しくそれらを感じ取った母校の校歌・応援歌の校歌祭であった。

支部会にDVD配布
なお、同窓会本部では「第4回青春かながわ校歌祭」の模様を収録したDVD(2枚組)を戸陵会の全支部会に配布するとともに、同窓会ホームページからも動画で視聴できるようにしている。各支部会の会合の折などに活用され、再びあの「感動」を味わってもらえるようお願いしている。

ろうか。参加された多くの同窓生の人生の1ページに刻まれたはずである。

また、あの頃は、歌詞を読み込むことよりも応援団リーダーの情熱叱咤よろしく、中庭の石畳上で夢中で覚え歌ったものである。それが今、歌詞のフレーズや言葉そのものから、先人の校歌にこめられた心や意味が伝わるかのような不思議な感覚である。世代を超えた同窓生と現役生の大合唱という一体感も相俟って校歌・応援歌の魅力を抱かすにはいられなくなつたのは私一人ではないだろう。青春の思い出帳だけではない校歌・応援歌には人生の応援歌になる力が潜んでいる。

同窓会名簿作成について
去る平成21年11月28日開催の理事会において、平成22年度事業として同窓会名簿の最新版を作成することに決めた。つきましては、県内同窓会等の名簿作成に実績のある次の業者を選定し、名簿作成を進めてまいりますので、各種照会通知等が配送された際には、ご理解・ご協力をお願いいたします。

●名簿作成委託業者
株式会社 サラト
(東京都千代田区外神田5-2-3)

創立100周年の年の、平成14年に着任以来、22年3月までの8年間、同窓会の諸行事・校内外の仕事等で皆様方に大変お世話になり、ありがとうございました。本年4月の異動で鎌倉の県立七里が浜高校に転勤致しました。

厚木高校在任中は毎日、両青(阿夫利の高嶺と相模の流れ)に見守られながらの勤務で、身の引き締まる思いでやってきました。校歌祭・地引き綱会・同窓林の思い出の杜に親しむ会・各支部会の総会等、事務局員として様々な会合に参加させていただきました。

それぞれ地域性豊かな活発な活動に参加することで、いろいろな経験もさせていただき、厚木高校に赴任できた喜びを別の角度からも感じる事ができました。

百年を超える学校の同窓会というところで、当初は戸惑いも多々ありましたが、諸行事でお会いする同窓諸氏の暖かいお心遣いにより若輩者の私でも、何とか会の仕事を勧め上げることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後は、戸陵会会員の一人として、会のご事に携わって行こうと思っております。

末筆ながら、厚木高校のますますの発展と同窓会の皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

特集 第4回青春かながわ校歌祭

校歌は人生の応援歌なり

実行委員会事務局 小島 富司(高18回)

血潮は紅し火の如く
「妖雲影をひそむれば 自由の翼空高く 我又行かん憧憬の 真理の国には、たかん」は、胸に熱いものがこみ上げて仕方がなかった。

このように校歌と応援歌には、建学の精神や地域の風土、自然、歴史・文化が謳い込まれ培われてきた伝統や校風、顕現してやまない「学校の魅力」が表現されていると思えるのである。それらは(旧)神奈川県第三中学校から県立厚木中学校への歩みと「質実剛健」の校風から醸し出される特色であり校歌・応援歌を歌いながら、誰の胸中にも去来したのではなからう

最後に、校歌祭プログラムの巻末には、「青春」(サムエル・ウルマンの詩)が掲載されている。青春とは「心の持ちかた」であり、「たくましい意志」「ゆたかな想像力」「炎える熱情」であり、「人生の深い泉の清新さ」であるという。正しくそれらを感じ取った母校の校歌・応援歌の校歌祭であった。

支部会にDVD配布
なお、同窓会本部では「第4回青春かながわ校歌祭」の模様を収録したDVD(2枚組)を戸陵会の全支部会に配布するとともに、同窓会ホームページからも動画で視聴できるようにしている。各支部会の会合の折などに活用され、再びあの「感動」を味わってもらえるようお願いしている。

創立100周年の年の、平成14年に着任以来、22年3月までの8年間、同窓会の諸行事・校内外の仕事等で皆様方に大変お世話になり、ありがとうございました。本年4月の異動で鎌倉の県立七里が浜高校に転勤致しました。

厚木高校在任中は毎日、両青(阿夫利の高嶺と相模の流れ)に見守られながらの勤務で、身の引き締まる思いでやってきました。校歌祭・地引き綱会・同窓林の思い出の杜に親しむ会・各支部会の総会等、事務局員として様々な会合に参加させていただきました。

それぞれ地域性豊かな活発な活動に参加することで、いろいろな経験もさせていただき、厚木高校に赴任できた喜びを別の角度からも感じる事ができました。

百年を超える学校の同窓会というところで、当初は戸惑いも多々ありましたが、諸行事でお会いする同窓諸氏の暖かいお心遣いにより若輩者の私でも、何とか会の仕事を勧め上げることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後は、戸陵会会員の一人として、会のご事に携わって行こうと思っております。

末筆ながら、厚木高校のますますの発展と同窓会の皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

戸室ヶ丘での8年の勤務を終えて
前事務局次長 志村 祐(高24回)

創立100周年の年の、平成14年に着任以来、22年3月までの8年間、同窓会の諸行事・校内外の仕事等で皆様方に大変お世話になり、ありがとうございました。本年4月の異動で鎌倉の県立七里が浜高校に転勤致しました。

厚木高校在任中は毎日、両青(阿夫利の高嶺と相模の流れ)に見守られながらの勤務で、身の引き締まる思いでやってきました。校歌祭・地引き綱会・同窓林の思い出の杜に親しむ会・各支部会の総会等、事務局員として様々な会合に参加させていただきました。

それぞれ地域性豊かな活発な活動に参加することで、いろいろな経験もさせていただき、厚木高校に赴任できた喜びを別の角度からも感じる事ができました。

百年を超える学校の同窓会というところで、当初は戸惑いも多々ありましたが、諸行事でお会いする同窓諸氏の暖かいお心遣いにより若輩者の私でも、何とか会の仕事を勧め上げることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後は、戸陵会会員の一人として、会のご事に携わって行こうと思っております。

末筆ながら、厚木高校のますますの発展と同窓会の皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

学校情報

児玉洋子副校長先生は、本年3月31日付で退職され、教頭の佐々木健雄先生が副校長に就任されました。...



剛健・真剣・勤儉

三剣こそ時代のキーワードに

教頭大沢 利郎

厚高といえば、常にあこがれの存在でした。相模原育ちの私には、中学時代の仲間が通い、戸塚祭に呼ばれては、かなわぬものを感じた学校であり、部活(音楽部)の合...

過去5年間の主要大学合格者数

[現役・既卒の合計数 ()は既卒者] 平成22年4月2日現在

Table with columns for school names (e.g., 京都, 千葉, 筑波) and years (22年春, 21年春, 20年春, 19年春, 18年春). It lists the number of graduates for various universities.

最近5年間の進学状況

Table showing enrollment trends from 2018 to 2022. Columns include graduation path (e.g., 国公立大学, 私立大学), number of graduates, and enrollment rate.

茅賞 文武両道を実践 野球部の山根君に授与



3月1日、第62回卒業式が行われ、319名の相州健児がそれぞれの道へと旅立っていった。...

卒業生の中から、学業・部活動・人物とのすべてでの特に出るに優れている生徒に贈られる21年度の「茅賞」は、同窓会の満場一致による選考で、山根拓也君に決定。...

部活動の状況(平成21年~22年)

吹奏学部

去る4月10日に行われた「第8回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール」全国大会に吹奏楽部から打楽器の5人が出場、優秀賞を受賞した。...

ソフトテニス部

男子ソフトテニス部は、昨年6月の関東大会に松井幸太郎君と清水貴大君のペアが出場。...

山岳部

昨年5月の県予選で2位の成績を収め、11月の関東大会「第53回関東高等学校登山大会」に同部から4人のメンバーが出場。...

囲碁将棋部

1昨年の成績は、将棋が県大会個人戦優勝、団体戦4位。...

新聞部

一般紙と同じプランケット版の「厚高新聞」(片面カラー)を7月、10月、3月の年3回発行。...

柔道部

12月13日に伊勢原市総合体育館で行われた「伊勢原市柔道協会会長杯争奪大会」において、男子の部、女子の部に共に3位に入賞。...

支部会便り

このコーナーでは、各支部会の活動状況や会員からのコラム、同窓OBの活躍ぶり等を紹介しします。

伊勢原戸陵会

地域に根差した動物病院をめざして

2008年5月、伊勢原大神宮近くに小さな動物病院を開業いたしました。もともとの出身は厚本市なのですが、現在の動物病院の分布や地理的な条件、そして大山を望むこの土地がとても居心地良く思えたことなどが決定の要因となりました。

偶然ですが、私も動物病院の隣には私が所属していた柔道部の大先輩が経営する清水家具店があります。厚木高校出身の方と隣り合わせるだけでも偶然ですが、まさか柔道部の先輩とは、本当に驚くことしきりです。

動物病院といっても、その規模や内容はさまざまです。人間並みの設備を備えている動物病院もあれば小さな診療施設だけのところもあります。また、近年は動物と家族同様あるいは家族以上の存在として接する方も多く、医療だけでなくさまざまなカウンセリングやスキンケアなど、動物病院で受けられるサービスは多様化してきています。

動物病院は動物だけのための病院ではなく、動物と暮らす人々のために存在するというのが、これからの動物病院のありようだとも言われています。

緑あつて伊勢原に来たからにはこの土地の方々の生活に役立てる

日比 真理(高39回)

動物病院として何ができるのか? 基本的な診療はもちろんですが、自分自身の得意分野である腫瘍診療(日本獣医がん学会認定腫瘍認定医)や犬のしつけスタッフが勤務している(JAHA認定家庭犬しつけインストラクター)など、他院にはない特徴や目標をもって日々の診療に励んでいます。

開業直前には伊勢原戸陵会の集まりにも呼んでいただき、地元の方々と知り合いになる機会を得ることができました。これからの人の縁を大事にしながら伊勢原の獣医療や動物との暮らしが豊かになるお手伝いをしていきたいと思



偶然にもお隣りさんは柔道部の先輩

秦野戸陵会

いつもの場所で笑顔で再会 旧交温めた第41回総会

恒例の「秦野戸陵会総会」を平成21年11月21日(土)、秦野市商工会議所を会場に開催いたしました。今回で41回を重ねますが、今年もまた、この季節にいつもの場所

で懐かしい仲間と笑顔で再会することが出来ました。

また、お忙しいところ、学校や同窓会本部、私達、秦野戸陵会とは長い交流の歴史を持つ伊勢原戸陵会から、多くの来賓の方々にご臨席いただきまして心から感謝申し上げます。

総会の後、39回の関野和夫先輩が「下手の横好き」と題して趣味の写真と撮影旅行のこぼれ話などを講演され、和やかな雰囲気のまま、懇親会に移りました。

懇親会は、総勢30名での会となりましたが、その会での話題はというと、秦野戸陵会からも多くの会員が参加した「第4



今回もまたいつもの元気な仲間が再会 (21年11月の総会)

津久井戸陵会

母校見学を兼ね飯山温泉で総会 突発事故に同窓の強い絆を痛感

前事務局長 平本 宏(高13回)

津久井支部では会の輪を広げようと地元で行っていたのを、今年

は気分を一新して2月7日に飯山温泉元湯旅館で総会兼新年会を行いました。

まず、学校側のご理解を頂きまして戸室の母校を訪れました。私達の到着を待っていた近藤同窓会長より挨拶をうけました。その後、副校長の案内で校舎や、生徒活動の数々の栄光のカップを見たり、校門付近の「井戸の由来」等の説明をうけ学校を後にしました。

バスの中では参加者は戸室の周りの変わり具合に驚きましたが、威風堂々としたイチヨウ並木や校内に残っている質実剛健の気風などは昔と変わっていない

かったです。総会になり、平成22年度の議題を速やかに終え本題の新年会に入りました。学校からは、荒木校長と志村先生のご臨席を頂きました。

かながわ校歌祭が盛会裏に終わったことや、学校を取り巻く近状報告等がありました。参加者は広い会場での離れも気にせず通学に不便した苦労話等に時の経つのも忘れて談笑

していました。



昨年は母校見学を兼ねて飯山温泉元湯旅館で総会開催

新年会が盛り上がる中、幹事役の私の不摂生で救急車のお世話になり、その車に乗せてくれた2人は、家族が病院に到着するまで待っていてくれて、そのやさしさに同窓生の強い絆を感じました。また、会を中断させてしまい皆様

座間戸陵会

昨年5月の第20回総会に
甘利明(高20回)前国務大臣が講演

会長 瀬戸 宏孝(高4回)

本会は、昭和61年に発足して25年を迎えます。会員数は千名を数え、毎年10月に総会を定例的に開催しておりますが、昨年からは、本部の日程に合わせて5月末に行うことになりました。総会の際、各界の卒業生を主に講師にお招きし講演を行い、会員の研鑽に努めております。



最近の政治情勢を講演する甘利明(高20回)前国務大臣

相模原戸陵会

「両青会」から「戸陵会」へ
創立21年の総会で改名

恒例の第21回定期総会は9月13日、相模原市民会館で開催し、来賓として母校の荒木高司校長、佐藤忠一副会長、志村祐一先生が出席され、同窓生59名が集いました。特に会則改正では長年慣れ親しんだ両青会から戸陵会に改名、今後共宜しくお願い致します。総会後の講演会は同期の安藤和次郎君が同級生岡部誠君らの品買改良し登録した「照手のハナモモ」



60名以上の参加で盛会となった第21回総会

いものにするための活動状況などを話され、大変勇気づけられる思いでした。さらに現職の荒木校長先生や、同窓会の近藤会長等にもご出席いただき、厚木高校の活躍状況、特にスポーツ等の全国大会の出席状況や、卒業後の進路等最新の情報も報告いただきました。毎回40、50名位の出席者があり、懇親を深めております。今後とも一層の会の充実発展を期そうと役員一同張り切っている昨今です。

頂きたいと、安藤君の紹介により、よこやま光子氏が説経「ささら語り」小栗判官・照手姫物語のひとり語り」を公演したものでした。少し解説しますと、説経とは中世末から近世にかけて流行った芸能の一つで、ササラを伴う「語り物」のことです(日本の語り芸、講談や浪花節、落語などのルーツ)。「をぐり」はスケールが大きく、時空間もこの世からあの世まで、地名も広範囲にまたがり、雄辯として人々に愛されてきました。

品や想いを込めた曲を演奏しました。NPO法人 音楽センター櫻の会(おうのかい)主催、相模原市、市教育委員会、相模原戸陵会(会長篠崎源太郎・中31回)、さがみてるて姫の会(会長根岸信行・高9回)が後援、当日は厚高同窓会佐藤忠一副会長・篠崎会長・根岸会長をはじめ同窓生が多数参加し功績を偲びました。

この公演の陰には亡き小川勇夫市長(高1回)や同級生木下辰雄(高7回)元相模原市助役ら官民一体となり支え合った大きな存在を忘れることは出来ません。「幼いころ、母から照手姫というお姫様がいたんだよと聞いて上溝で育ち、こどもの頃は姥川の周辺の田んぼでいつも遊んでいた。そうした相模原の原風景、農村を舞台にしたイメージで作曲した。今は、当時の情景をオペラを通して後世に伝えたいと思った」そう、歌劇「照手姫」にはふるさとへの強い思いが込められています。そして戸室ヶ丘の強い絆と縁に感謝しつつ、心からご冥福を祈っております。

高橋さんは日本のすばらしい音楽を広く次世代へ、永く後世へ継承したい、音楽を通じて社会に貢献したいとの想いで活動されてきましたが、昨年6月16日、病のため

追悼演奏会「ありがとうを音にのせて」が9月18日「杜のホールはしもと」で、教え子で親交の深かった音楽家たちが高橋さんの作

追悼演奏会には心温まる素晴らしいものとなり、心強い同窓の絆に感謝した次第です。幕間で相模原市長に代わり山口副市長が市民を代表し追悼のあいさつをされ、音楽を通じて偉業に強い感銘を受けました。

自ら企画・制作し、その上多額の寄付までして、亡き奥様の夢を実現されたも



官民一体となって開催された追悼演奏会

高橋鐵雄さん(高7回)を偲んで
市内13の小学校校歌など
多くの作品残す

事務局長 安藤 和次郎(高9回)

高橋さんは日本のすばらしい音楽を広く次世代へ、永く後世へ継承したい、音楽を通じて社会に貢献したいとの想いで活動されてきましたが、昨年6月16日、病のため

海老名戸陵会

自称、びくびくびくびくの弁護士として

弁護士登録をしてから昨年で37年になります。最近では弁護士もマスコミに出たり、国会議員に就任するなどして表舞台に上がる事が多くなっています。しかし、守秘義務を負っている弁護士として受任事件や依頼者に係わるようなことを表に出すのは控えなければなりません。自慢話や宣伝にも注意を要します。

一方、同じ事件・紛争はなく様々な人々、様々な世界を知ることが出来ます。解決への道もそれぞれ異なり、その都度限られた資料(証拠)を駆使して、法律という枠の中で依頼者に最良の解決策を模索

伊田 若江(高18回)

することに なります。それは推理小説の謎解きにも、或は登山にも似た過程と達成感をもたらしてくれま

御所見戸陵会

我が青春譜

箱根駅伝の想い出

内野 喬(高17回)

中継所に飛び込み、次の走者に襷(たすき)を託して倒れ込む選手。今年の正月も箱根駅伝を見ながら過ごした。



鶴見中継所に内野から2区鈴木へ。伴走車には大貫重信

ます。多くの場合依頼者からは感謝され敬服されることになり、社会的地位もそこそこ得られます。そういった精神的満足感と経済的見返り(苦勞の割にはそれ程の高額ではありません)が得られます。同年輩が定年を迎える頃となっても体力、知力の続く限り続けられるというのにも魅力でしょうか。

高校入学と同時に兄(11回卒)に勧められて陸上競技部の春の合宿に入りました。それが陸上競技を始めるきっかけとなった。

高校の時の私は目立った記録もなくあまり活躍はできなかった。立教大学に進み、幸いにも大貫重信コーチ(9回卒)の下、1年生と3年生の時に2度1区で箱根駅伝を走る事が出来ました。

送車。まさに始まるぞという雰囲気は独特のものでした。

今でも鮮明に思い出せるのは3年生の時の大会です。スタートしてから芝の増上寺、品川駅前、八ツ山橋と集団で進み橋の下りにかかった時、1回目の揺さぶりがあった。ここで2、3人が振り落とされた。私はまだ集団の中にいたが徐々に離されていった。その先の鈴ヶ森には各大学の伴走車が増加し、問題を起こす者も増加しています。伴走車は益々増えることでしょう。

大和戸陵会

日本武尊と弟橘媛にまつわる縁

態ではない。この状況を見たコーチから「止まるな!止まると全身にくるぞ!」と怒鳴られた。中継所迄はまだ5キロある。1区で襷が途絶えたら仲間申し訳ない。騙し騙し必死で脚を運んだ。六郷橋にかかった頃最悪な状態からは脱し、前を行く教育大学を追い詰めた。前を走る中継所に飛び込み、前を走る中継所に飛び込み、1時間6分58秒。区間11位。そして総合成績12時間12分10秒、11位。10位早稲田との差は8秒。翌年のシード権を獲得できなかった。この大会以降、立教大学は箱根駅伝には出場できていない。毎年1月には神奈川県西地区箱根駅伝OB会があり、往年の選手が集い、楽しい時間を共に過ごしている。

早咲きの桜が見頃となりましたが、当支部は未だ冬眠中です。新年度の事業については例年、5月末頃の総会にて決まります。支部だよりは次号にてご報告する事になるでしょう。

さて、今回は広報委員青木の日本武尊その妃と弟橘媛に係る説話の不思議な縁を雑記します。昭和30年、母校厚木高校3年在学時、図書室で目がとまった1冊の本「神奈川県大観1自然と人文」石野瑛著です。

その後、青木は横須賀市にある叔母の家に行った折、日本武尊と弟橘媛命が祀られている走水神社に参拝する機会があった。戦後10有余年、神社の手入れも思うような状態ではなかった。偶然にも神社の掃除をしてもらえる御近所の2人の婦人に出会いました。

川崎市多摩・麻生戸陵会

「我が青春譜」

厚高で学んだ柔道精神
名門明大柔道部で発揮



会長 町山 良行 (高11回)

昭和2年、小田急線が新宿から小田原へと開通した年。多摩川を渡った電車は川崎北西部、多摩丘陵の山合を縫うように遠く富士、丹沢山塊の山並みを仰ぎながら、町田、相模大野と松林の相模川を走り抜け、相模川の鉄橋を渡る

幹事をお願いすることが出来、今後の活動に期待したい。私の柔道の影響は、小田急電鉄社員であった父と、兄光良(高6回)が柔道で国体選手だったこと

厚木戸陵会

国家公務員法改正で
衆院本会議に登壇

衆議院議員 後藤 祐一(高39回)



同窓会の皆様には、日頃より大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。また、「同窓林の下刈り」(懐い出の杜に親しむ会)を



本年4月6日の衆議院本会議

4月6日の衆議院本会議におきまして、民主党を代表して登壇し、「国家公務員法改正案」について

2時間0分18秒。平成22年青梅マラソン30kmのタイム(50歳代13位)。これはこのコラムを書く一番近い大会の記録です。これが読まれるころは3月の長野マラソン(フル)



54歳で自己ベストを出した湘南国際マラソン

2時間0分18秒。平成22年青梅マラソン30kmのタイム(50歳代13位)。これはこのコラムを書く一番近い大会の記録です。これが読まれるころは3月の長野マラソン(フル)

40過ぎから始めたフルマラソン
自己ベストは2時間54分12秒

大沢 弘(高25回)

インターネットでご覧になれます。http://www.shuginv.go.jp/jp/in dex.php

走りました。無事制限時間内で完走しました。翌12年、同ハーフマラソンにチャレンジしこれも完走しました。そうすると欲がでてくるもので、平成13年にフルマラソンの小笠原川マラソンに出場

睦合戸陵会

「我が青春譜」

「60年安保と私」

同窓会顧問 葉山 岳夫(高7回)



今年、日米安保条約改定から50周年にあたります。安保と私の青春は、切り離せません。昭和30年3月の母校卒業式には、岡崎賞という賞を頂きましたが、その岡崎男先輩(中9回)は、旧安保条約のもとでM.S.A協定を米国と締結したときの外務大臣でした。東大1年生のときに立川基地拡張反対のため砂川に出掛けてデモ



国会構内に入るデモ隊(昭和34年11月27日)



国会周辺デモ禁止法の阻止を宣言する葉山岳夫委員長(昭和34年12月2日)

隊に参加して、警棒で頭を殴られ頭皮を割られたうえに逮捕されました。流血の砂川事件です。警察機動隊に頭を叩かれて国家権力の横暴が目が覚めました。この不当逮捕がきっかけで弁護士になろうと思いたちました。法学部に進学して学生自治会である緑部の委員長に選出され、東大本郷の10学部自治会を束ねる立場になりました。昭和34年11月27日国鉄労働組合、全連、日教組などの労働組合は、安保反対の統一行動として国会への請願デモを行いました。全学連は、請願デモにあきたらずに数千名の機動隊の阻止線を突破して国会構内に入りました。警視庁は、この事件の首謀者として全学連幹部、早稲田、法政、東大の学生生活家計8

睦合戸陵会

三栖幸生さん(高16回)が

「土門拳文化賞」受賞



今年3月、厚木市の元市職員で、市内妻田西在住の写真家三栖幸生さん(64)が、プロ写真家への登竜門ともいわれる「第16回・酒田市門拳文化賞(山形県酒田市主催)



受賞した三栖さんの作品「時景一ときけい」より



名に逮捕状を出しました。私は、あらかじめ想定していませんでした。逮捕は、不当だと思っていました。現場で引き続き活動をするために本郷の構内に入りましたが、大学構内には立ち入れません。そこで警官の学内立ち入りをめぐって、東大校長を頂点とする大学当局と学生自治会と警視庁とが対立しました。東大籠城事件といわれました。結局、2週間後に赤門まで逮捕されましたが、その時の東大学長が茅誠司先生(中11回)でした。茅先生には、大変なご心配をおかけしてしまいました。当時のことについては、むしろ、なつかしんでおられたと、うかがっておりますが、ご生前にじかにお会いしてお詫言したかったと思っております。

荻野戸陵会

地の利を生かした

年2回の会主催、ゴルフコンペへ

事務局長 諏訪 寿夫(高16回)

荻野戸陵会は、平成14年3月に母校の創立100周年事業を機に諸先輩方のお力添えにより約40名の会員をもって設立されました。以降現在では中学18回から高校26回生まで90名を有する迄になりました。支部の活動としては、例年年度始めの総会・懇親会と、春と秋年2回のゴルフコンペで世代間交流の中で、親睦を深めています。また同窓会や厚木連合戸陵会行事も、活動の一環として積極参加させて頂いています。

荻野は地元にも多くのゴルフ場を有する支部でもあり、ゴルフ人口も多くゴルフコンペの組み合わせは、過去13回平均7組(26~7名)となっております。また、ゴルフをしない会員の方を考慮して、一昨年は大山ハイキングを実施し、紅葉を楽しみ大変好評でしたので、現在若葉の高尾山ハイキングを企



土地柄ゴルフ好きの多い荻野戸陵会

組写真。選考委員からは「人物はほとんど写っていないが、なぜか生活している人間のおいぐさる。ドキュメンタリー小説を読んでいるよう」と評価された。三栖さんは、厚木中学・高校の写真部で写真撮影を始め、特に厚高時代には土門拳の写真集「ヒロシマ」や「筑豊のこどもたち」を見て強い感銘を受け、以来「記録と記憶にとどめるため」ドキュメンタリー写真にこだわって撮り続けていくという。授賞式は3月21日に土門拳記念館(酒田市)で行われ、同館での展示後、5月18日~31日、新宿二コンサロンでも受賞作品展が開催される。受賞の喜びを三栖さんは「土門先生の冠がついた賞ですごくうれしい。今後自分と撮影対象との関連性を大切にして、撮り続けていきたい」と話している。 広報委員 池田 清高(高19回)

南毛利戸陵会

サンパウロから帰国後も両国の架け橋に

石井 孝(高28回)

サン・パウロ州軍警察本部勤務を終え、一昨年3月に帰国。単身での現地生活は、大変ではありましたが、ブラジル人の温かさや日



サンパウロ市からの交番視察に同行

本人に対する尊敬の念を強く肌で感じたことから、帰国後も両国のささやかな架け橋になりたいと思

い、様々な活動を続けています。例えば、研修等で来日するブラジル警察関係者の受け入れ、会議への出席、警察本部や交番視察に同行、県内観光地の案内や各種メ

ディア(TVK出演、新聞各社)からの取材対応を通じ、両国の警察、治安問題、外国人との共生等

玉川・森の里戸陵会

職場見学から文化講演会も

会長 朝生 旭(高9回)

支部会の活動としては、どこでも通常年1回は総会が予定されていると思

我が玉川・森の里戸陵会でも、各支部と同様に年1回の通常総会を開催して

当戸陵会が発足してから、何か特色めいた行事などが出来ないものだろうか、という話になり、先

ず取り入れたのが、総会に先だつての会員諸氏の経営している職場見学

で感じました。

翌年は、建築用木材の加工を近代的設備の中で行っている市川屋さんに伺いました。プレカットの素晴らしさに目をうばわれました。

今年度は、総会のおと文化講演会を開催。講師は万葉集の研究者で先輩の中村昭先生(高40回)で『現代に生きる万葉』という演題で

のもつ意味や深い背景などを現代と結びつけてのお話でした。初めて接し得た内容に、しばしの時間資料にペンを走らせました。



平成21年度の総会(前列左から2人目が中村先生)

職場見学を通して知ることができたこと、講話を通して知り得た文学の深さなど、充実感あふれる顔、顔、顔がそこにはありました。

校歌に歌われる阿夫利の峰を朝に夕に仰ぎ見ているという小さな支部からのひとつの発信です。

清川戸陵会

定年後、ランの培養で余生を

小林 弘(高16回)

東京から定年を機に清川村に引越して早3年。家族は東京ですが、毎日ランとの生活です。趣味として30年前前からランを始め、定年

後はランの培養で余生を過ごす事を決めていました。現在10坪のガラス温室と3つのラン小屋に、約100鉢の春ラン、約200鉢の寒ランと約500鉢のエビネを栽培しています。寒ランの栽培は旧

制厚木中学35回卒の遠藤武雄氏に指導を頂きました。また当時私が在籍していた厚木高校の生物の先生でおられた露木迪孟先生から、ランの人工交配の無菌培養設備を頂き、毎年エビネを主体に春ラン、寒ランの人工交配を



清川村物産館「清流の館」で開催した「寒蘭展」

ン・寒ランは8、9年かかりますので、交配した花を見られるよう長生きするつもりです。既に10年前から交配したエビネの苗が咲き始めています。昔は厚木周辺の山にもエビネがたくさん

新潟戸陵会

新潟でも20数年ぶりの大雪でした

昨年より暖冬と言われていたのに、昨年末より新潟市は20数年ぶりの大雪になりました。市内は除雪が追いつかず大渋滞。年明けても大雪は続き、国道は通行止めにもなり、避難所まで出来る羽目に、

気候の変化がゲリラ的になったようです。環境の破壊が進んだのでしょうか。私が厚木高校に通っていた頃は

まだ東名高速が開通して居らず、トラックは箱根越えを避け、R246を通り松田、山北、御殿場か

ら沼津に抜けていました。そしてSONYや厚木自動車部品などの企業がようやく厚木の工業団地に進出し始めた頃でした。

高度経済成長の波に乗り、企業は業務業績を拡大し続けた環境の正にど真ん中で生きて来たことを感じました。

広報委・佐々木 健(高15回)

同期会 便り

「高9回卒・同窓の集い」

相州健児はいつまでも若い!!

長谷川 美雪

厚木高校に74年間、お世話になった私にとって同窓会は心配だった。というのも、在学中は器械体操部で練習に励んでいたのだが、体調をくずし1年間休学、卒業は1年遅れて昭和33年3月の高10回卒。心配していた同窓会の案内も9回と10回の両方から連絡を受けてかえって幸せに感じている。同窓生の心の優しさに触れる。

昨年11月、昭和32年卒の同窓会は古稀を迎えるの初めての会。70名をこえる出席者で盛大な会が厚木

木口ワジールホテルで開催された。はじめに、すでに他界した同窓生への黙祷、幹事の挨拶、乾杯、楽しい会が続く。さまざまな話題と厚木高校時代の思い出に、それぞれのテーブルは賑わっていた。半世紀ぶりの再会にやっつこととで面影を思い出す他クラスの友人、時間の経過とともに、昔にかえり話はずんだ。

「戸室の丘辺、旭日さして...」 「伝統古き三剣の...」 応援団だったK君やI君の指揮



70名をこえる集いに厚高時代の思い出がよみがえる

で合唱し、閉会へ。会場をかえり二次会にも多くの参加者で大変盛り上がったと伺っている。相州健児の心はいつまでも若さに燃えていた。

「高17回3Cクラス会」

元福岡ダイエーホークス球団社長

「高橋廣幸君を偲ぶ会」を兼ねて



故高橋廣幸氏

10年ぶりの3Cクラス会を元応援団長だった高橋廣幸君(元福岡ダイエーホークス球団社長)を偲ぶ会を兼ねて、11月21日、ロワジールホテル厚木1階バームツリーで

足立 一彦(高17回)

開催した。

当日は、担任の高橋武彦先生と26名(生前、高橋君と交友のあった他クラスの4人の参加を含む)のクラスの仲間の参加があり、前年以上に遠近問わず(遠くは、仙台市、山口県光市)駆けつけてくれるなど、盛大かつ厳かに開催することが出来た。

卒業以来、40数年ぶりの人や久しぶりの人などもいて、懐かしい旧友とのふれあいを深めると共に思い出話に花を咲かせていた。

高橋廣幸氏略歴

昭和21年、海老名市生まれ。40年厚木高校第17回卒。法政大学経営学部卒。44年(株)サンコー(現マルエツ)入社。45年、(株)ダイエーへ。商品部・店舗運営・関連各社の要職を歴任。平成16年、当時の福岡ダイエーホークスの球団社長に。球界が再編問題で揺れる中、球団売却などにかかわる。ソフトバンクへの球団譲渡完了に伴い、17年1月に退団。

また偲ぶ会では、全員が高橋君の遺影に手を合わせ、また、約半数の人から生前の勇姿を思い浮かべながら、思い出を語っていただいた。

故人では同じクラブでのエピソードや人柄を語る者、故人の素晴らしさを惜しむ者友を失った悲しみを驚きで目頭を押さえる者、鎮魂の言葉を掛ける者などあまりに早い天国への旅立ちに、それぞれが改めて冥福を祈った。

そして、次回は、7年後の「70年・古希」開催(高17回の学年同窓会は、創立110周年の平成24年を予定)



同期の友の遺影を囲んで再会を約する

弁論部OB会

18年ぶりの

戸陵雄弁会総会に49名参加

長田 敬幸(高7回)

平成21年11月29日、弁論部OB会(戸陵雄弁会総会)が盛大に催された。という若い卒業生からは「弁論部であった」と言われそうである。平成9年からは部員0で休部になっていたからである。会合は18年ぶりだが、49人もの参加は未曾有のものであった。会の進行が心配されたが、久しぶりの再会に話が弾んだり、幹事の工夫もあって有意義なものとなった。

が多かったが今ではそれが懐かしい。綱領は、緑豊かな戸室が丘に空高く、青年の意志を弁論に發揮せよ。時代の創造は常に弁論の本質にかかれることを信ずべし。で始まる。足立原先生の情熱が溢れている。合宿では部員の連帯も強まる。今会の総会に1期当たり4、5人が参加しているのはその証拠だろう。

OBの関心事は部活動の再開で学校へ要望を出す声も出てきた。ただ学校では「休部」として生徒の内部希望があればいつでも活動が再開できるようになっているといわれて今だにそのままになっている。

最後に次の6名を幹事として会を閉じた。足立原泰(昭35・高12回)代表、松田壯吾(昭41・高18回)、今井雅裕(昭49・高26回)、御持典子(昭49・高26回)會計、高橋達也(昭50・高27回)、杉山久美子(昭52・高29回)

弁論部の練習はやかに水を入られてキツネ塚に行って発声練習・声量練習を行った。塚は大山を望む畑の中であったが、都市化がすすむと「いろは」などと大声を出すのは許されなくなった。夏休みには顧問の足立原茂徳先生(中32回卒、本校勤務を経て厚木市長4期)の発案で文化部として珍らしい合宿を行った。教室には柔道場から畳を運んで机の上のせ、壁には合宿綱領を貼って合宿場を設営した。合宿には先輩が泊り込んで原稿の指導をし、最後の日に発表会を行った。苦しいこと



18年ぶりに集まった「弁士」の面々

同窓会本部役員・理事・支部役員 (平成22年4月1日現在)

【同窓会本部役員】

- 会長 近藤 俊二 (高6)
副会長 梅澤 行次 (高7)
副会長 安藤 和次郎 (高9)
副会長 石川 範義 (高10)
副会長 佐藤 忠一 (高10)
副会長 大野 訓男 (高11)
副会長 八木 一郎 (高14)
会計監査 大津 博康 (高10)
会計監査 佐藤 裕洋 (高10)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 杉田 泰繁 (高14)
事務局長次長 石塚 修 (高28)
会計 足立原 泰 (高12)

【同窓会校内事務局】

- 事務局長次長 須藤 福治 (高28)
事務局長総務 渡辺 卓 (高31)
同 坂本 修一 (高33)
会計 吉垣 武 (高39)
支援基金担当 内田 憲夫 (高30)

【理事】

- 1 篠崎 源太郎 (中31)
2 中野 昇 (高5)
3 稲垣 嘉則 (高6)
4 長田 敬幸 (高7)
5 川田 善久 (高7)
6 高橋 武彦 (高8)
7 青木 茂治 (高9)
8 朝生 旭 (高9)
9 大貫 隆広 (高9)
10 櫻井 晃 (高9)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 花田 克雄 (高12)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 秦野戸陵会
会長 八木 伸一 (中40)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井支部会
支部長 小野沢 純男 (中40)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚(湘南)支部会
会長 落合 重治 (高13)
幹事長 杉山 静男 (高2)
5. 横浜会
会長代行 長田 敬幸 (高7)
6. 相模原戸陵会
会長 篠崎 源太郎(中31)
事務局長 安藤 和次郎(高9)
7. 座間戸陵会
会長 瀬戸 宏孝 (高4)
幹事長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会長 八木 陽一 (高11)
幹事長 小島 猛 (高15)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長代行 新倉 正治 (高15)
事務局長 笠間 城治朗(高14)
11. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
事務局長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会長 高橋 武彦 (高8)
事務局長 鈴木 克則 (高27)
14. 御所見戸陵会
会長 長谷川 和生(高10)
事務局長 清田 力 (高15)
15. 厚木連合戸陵会
会長 内田 徳孝 (高10)
幹事長 伊藤 修治 (高17)
事務局長 森久保 純生(高16)
①厚木戸陵会
会長 川田 善久 (高7)
事務局長 池田 清 (高19)
②依知戸陵会
会長 櫻井 晃 (高9)
事務局長 伊藤 修治 (高17)
③睦合戸陵会
会長 難波 浩 (高11)
事務局長 吉川 昭 (高26)
④荻野戸陵会
会長 花上 肇 (高11)
事務局長 諏訪 寿夫 (高16)
⑤小鮎戸陵会
会長 志村 昂二 (高15)
事務局長 森久保 純生(高16)
⑥南毛利戸陵会
会長 城所 文洋 (高11)
事務局長 小淵 正志 (高18)
⑦玉川・森の里戸陵会
会長 朝生 旭 (高9)
事務局長 高橋 増次 (高11)
⑧相川戸陵会
会長 大貫 隆広 (高9)
事務局長 二見 政宏 (高16)
16. 清川戸陵会
会長 山田 恵一 (中37)
事務局長 石川 武久 (高16)
17. 新潟戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齊藤 勝司 (高8)
18. 関西戸陵会
会長 齊藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)



http://www.atsukou-dousou.org/

同窓会ホームページのご案内

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。動画や写真など、多彩な内容で同窓生の皆様に時々の情報をお伝えしています。

事務局便り

事務局スタッフ8名に

本年4月の人事異動で、英語科の久貝直先生(高20回)が退職、数学科の志村祐一先生(高24回)が七里方浜高校へ転勤となりました。

先生方には長年にわたり同窓会の各種活動に大変ご尽力をいただきました。この場をお借りして、

編集後記

●昨年21年度同窓会最大のイベントは「第4回青春かながわ校歌祭」でした。今号では校歌祭特集として、表紙の写真構成、2面に近藤会長の事業報告、3面に実行委事務局の小島氏より準備から感動の

厚く御礼申し上げます。今年度は次の八名の校内役員で諸処の活動に頑張ってください。

●ほかに本年4月に着任された大沢教頭先生、長年本部事務局でご尽力いただき転勤された志村先生からの原稿をはじめ、各支部や同期・OB会からも沢山の活動報告や会員情報、コラム等を寄せていただき、急ぎよ増ページにて対応致しました。

●19年度から広報委員会を設置し各支部会より選出の広報委員のご協力と、本部並びに事務局のご支援で今回の会報ができました。同窓会活動の伸張が、すなわち本誌の充実ぶりにつながるものと思

●ご意見ご要望、お気付きの点など、どしどしお寄せいただき、今後の誌面に反映させていただきます。皆様のご指導ご協力をお願い致します。

フィナーレまでの詳細を報告してもらいました。

広報委員会名簿 (平成22年3月末現在)

Table with 4 columns: 役職, 氏名, 卒会, 所属戸陵会, 連絡先. Lists members of the Publicity Committee including names like 佐藤 忠一, 小澤 久夫, etc.